A Study of Teaching Methods for Expressive Movements by Using of Teaching Materials on Music

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/23382

小学校における表現運動の指導法研究
—音楽教材を題材として—

吉川　京子・木本　三佳*

A Study of Teaching Methods for Expressive Movements by Using of Teaching Materials on Music

Kyoko YOSHIKAWA & Mika KIMOTO

はじめに

新しい学力観に立つ教育では，自分の考えをしっかり持ちながら社会の変化に主体的に対応して創造的に生きるための資質や能力として，表現力の育成が重視されている。近年，学校研究に「表現活動を通して・・・」[3]「表現力を伸ばす」[4]「自己創造的表現」[2]など，表現に関する取り組みが見られる。概要は，国語科など各教科や集会活動の中で，音声や文字，造形や絵画，表情や身振り，歌唱などの表現方法を用いて，自分の中に生まれた想いを表現するというものである。しかし，それらの中に体育科の「表現運動」は，ほとんど取り上げられていない。自分の中で生まれた感情や感動，イメージを身体を使って表現する「表現運動」は，表現力の育成には適切な教材の一つだと考えられるのに，なぜ，取り上げられていないのであろう。

その一因として「表現運動」の指導の難しさが挙げられる。「ダンス指導の現状と課題～全国小学校・中学校・高校現職教員への意識調査から～」[7]によると，指導の際の障害として，「生徒が動かない」「助言の仕方がわからない」「自分で動いてみせられない」「よい資料がない」等が挙げられている。また，表現運動の授業としてカリキュラムに組み込まれているのは，小学校では，6割であり，その内の6割弱は運動会の内容としてであった。更に，年間授業時数における表現運動の配当時間をみると，文部省指導書の領域時間数の15％を満たしているのは，僅か4％と少なく，十分指導されているとは言えない結果であった。

平成元年度に改訂された学習指導要領では，「表現運動」に関しては，従前の「軽くて柔らかい感じ」などの具体的な表現課題を削除し「身近な生活の中から題材を選んで」とされているだけであり，教師の創意工夫に任される部分が多く，幅広く題材を選ぶことができ，より弾力的に指導できるようになった。しかし，何を題材に選んだらよいかわからず，逆に取り組みにくくしているとも考えられる。

先の意識調査[7]によると，今後身につけたい内容として，「本人の実技能力を高める」「助言の仕方」「題材選択の仕方」等を挙げていた。

そこで，助言の仕方や題材選択の仕方がわかり，誰もが躊躇なく「表現運動」の指導に取り組める方法を検討する必要があろう。題材選択の方法の一つとして，子どもたちにとって学習経験があり，イメージが湧きやすい他教科から選択する方法が考えられる。音楽科の歌唱教材は，イメージを広げる言葉が，歌詞の中に多く使用されており，表現運動に発展しやすい教材の一つと考えられる。

そこで，本研究では，音楽科の歌唱教材の分析，及び，表現運動の指導事例の分析を行い，学年による違いを明らかにすることによって，発達段階に応じた表現運動指導を展開させる上での基礎資料を得ることを目的とする。

Ⅰ．研究方法

1．小学校表現運動（模倣を含む）の指導事例の抽出

雑誌「女子体育」1992年～1994年の3年間，及び，ダンスの教育学2から小学校表現運動に関する指導事例を全て抽出し，1・2学年，

*田鶴浜町立田鶴浜小学校教諭

3・4学年，5・6学年別に分類した。

2．他教科から題材を取り上げている表現運動の指導事例の分類

小学校表現運動の指導事例の中から，他教科から題材を取り上げている事例を抽出し，教科毎に分類し，その頻度を求めた。

3．音楽教材の分析

(1) 音楽教材の分類

音楽科の教科書（教育芸術社）から全ての教材を抽出した。教科書の選定においては，来年度から教科書が改定され，石川県内では附属小を除くすべての小学校で教育芸術社を使用する予定になっていることから，新版の教育芸術社の教科書を使用した。抽出した教材を，松本らの「課題学習とダンス・イメージー舞踊連想用語の収集・分析ー」[6]の分類方法にしたがって，題名から分類した。分類項目は，Ⅰ自然現象，Ⅱ生活事象，Ⅲ思想・感情・抽象の3つが大きな分類項目であり，さらに，Ⅰ自然現象を①動物②植物③自然現象，Ⅱ生活事象を④物質⑤遊び・スポーツ⑥人と生活，Ⅲ思想・感情・抽象を⑦夢・物語⑧感情⑨感覚⑩抽象概念に分類し，全部で10項目である。次に歌詞の内容（何について歌われたものか）から同様に分類し，頻度を求めた。その際，鑑賞教材・リコーダー練習曲・合唱曲として扱われているものは除いて分類した。

(2) 歌詞の分析

歌詞の構造を明らかにするため，各曲の歌詞から，主体・主体に関する動詞・それらの言葉を修飾する言葉を抽出し，分析した。主体とは，歌の中心となっている生物・物体・自然・抽象概念等であり，主体に関する動詞とは，主体の動き・行為とした。主体・主体に関する動詞を修飾する言葉は，who（だれ），what（なに），where（どこ），when（いつ），whom（だれと），how（どのように）に分類した。

4．表現運動の指導事例の分析

(1) 題材の分類

題材が明記されているものを抽出し，3(1)と同様に10項目に分類し，その頻度を求めた。

(2) 課題の分類

課題が明記されているものを抽出・分類し，その頻度を求めた。課題には題材以外に特に明記されているものを取り上げた。

(3) 動きを引き出す刺激

動きを引き出す刺激が明記されているものを抽出・分類し，その頻度を求めた。

(4) 子どもから出てきたイメージの分類

子どもからでてきたイメージが明記されているものを抽出し，「分類語彙表[5]」をもとに①動物（ほ乳類・鳥類・はちゅう類・魚類・虫類・無脊椎動物）②植物③自然現象（刺激・自然，物体，物質・宇宙，空・抽象）④物質（物品・資材・衣料・食料・住居・道具・燈火・地類）⑤遊び・スポーツ⑥人と生活（身体・主体・行為）⑦夢・物語⑧感情⑨感覚⑩抽象概念に分類し，頻度を求めた。

(5) 子どもからでてきた動きの分類

子どもからでてきた動きが明記されているものを抽出し，全身及び身体部位別に分類した。

(6) 指導言語の分類

指導言語を全て抽出し，①「動き」②「空間」③「時性」④「力性」⑤「身体の部位」⑥「身体の形」⑦「友達との関係」⑧「擬音語・擬態語」⑨「イメージ」に分類した。分類方法は①～⑦については「ダンス創作のための諸要因[8]」，⑧については「擬音語・擬態語の読本」[9]「擬音語・擬態語辞典」[1]，⑨については「分類語彙表」[5]に基づいて分類した。

Ⅱ．結果及び考察

1．小学校表現運動の指導事例

指導事例は全部で136文献（203事例）であった。1・2学年に関するものが46文献（57事例），3・4学年に関するものが49文献（87事例），5・6学年に関するものが41文献（59事例）であった。

2．他教科から題材を取り上げている指導事例

＜表１－１＞からわかるように，１・２学年では「生活科」「国語科」「図画工作科」「体育科」「学級活動」から17事例挙げられ，「生活科」が11事例と多かった。「生活科」から取り上げた題材には，「春みーつけた」のように探険活動を通した季節とのふれあいによるもの，「せわをした生き物」のように日常生活の中での生き物とのふれあいによるものが多く見られた。

＜表１－２＞からわかるように，３・４学年では「国語科」「算数科」「理科」「社会科」「図画工作科」「音楽科」から12事例挙げられ，「理科」が４事例「社会科」が３事例と多かった。「理科」から取り上げた題材には「チョウの一生」のように観察によるもの，「社会科」から取り上げた題材には町や市など地域活動によるものが見られた。

＜表１－３＞からわかるように，５・６学年は「国語科」「算数科」「理科」「社会科」「家庭科」「体育科」「音楽科」から20事例挙げられ，「国語科」が９事例と多かった。「国語科」から取り上げた題材には，物語や詩の読み取りを通したものが多く見られた。

「生活科」から多く題材を取り上げている１・２学年，「理科」「社会科」から多く題材が取り上げられている３・４学年では，体験をもとにイメージを広げる指導方法が多くとられており，「国語科」から多く題材が取り上げられている５・６学年では，言葉からイメージを広げる指導方法が多くとられていると考えられる。

〈表１－１〉他教科から題材を取り上げている指導事例（１・２学年）

教　料	題　　材	数	計
生活科	「春みーつけた」	1	
	「いいものみつけた」	1	
	「あきみつけ」	1	
	「冬見つけ」	1	
	「なつのくらしとふゆのくらし」	1	
	「どうぶつれっしゃでぼうけんだ」	1	
	「どうぶつとなかよし」	1	
	「せわをしている生き物」	1	
	「お池の友だち」	1	
	「おはなしいっぱいあさがお」	1	
	「あぶりだしごっこ」	1	11
国　語	「うさぎ」	1	
	「お話づくり　スイミー」	1	2
図　工	「新聞紙」	1	
	「粘土細工」	1	2
体　育	「プールで泳ごう！」	1	1
学級活動	「ボールの行方」	1	1
合　計			17

〈表１－２〉他教科から題材を取り上げている指導事例（３・４学年）

教　料	題　　材	数	計
国　語	「筆で書こう」	1	1
算　数	「円と球」	1	1
理　科	「チョウの一生」	2	
	「チョウに変身」	1	
	「磁石の極の性質」	1	4
社　会	「町と仲良し」	1	
	「市にのこる楽しいお祭り」	1	
	「チョウのたんけん○○へＧＯ！」	1	3
図　工	「○○に変身」	1	
	「身近な材料を変えて楽しむ」	1	2
音　楽	「リズムにのって表現しよう」	1	1
合　計			12

〈表１－３〉他数科から題材を取り上げている指導事例（５・６学年）

教　料	題　　材	数	計
国　語	「短歌をおどろう」	1	
	「詩　われは草なり」	2	
	「詩　りんご」	1	
	「モチモチの木」	1	
	「やまなし」	1	
	「狼の物語」（おおかみ王ロボ）	1	
	「大造じいさんとガン」	2	9
算　数	「三角形と四角形」	1	1
理　科	「バクテリアの世界」	1	
	「メダカの一生」	1	
	「天気の変化」	1	3
社　会	「オートメーション工場」	1	
	「よみがえる国土」	1	
	「自動車ができるまで」	1	3
家　庭	「ミシン」	1	1
体　育	「パッとよけて一跳ぶ」（バスケットボール）	1	1
音　楽	「川」	1	
	「山の魔王の宮でん」	1	2
合　計			20

3．音楽教材の分析

(1)　音楽教材の分類

＜表２＞からわかるように，歌詞の内容（何について歌われたものか）からみると，１年生は①動物（14曲），⑥人と生活（５曲）の順に多く取り上げられており，２年生は①動物（11曲），⑥人と生活（５曲），３年生は③自然現象（８曲），①動物（６曲），４年生は①動物（６曲），⑥人と生活（６曲），５年生は⑥人と生活（８曲），③自然現象（６曲），６年生は⑥人と生活（８曲），③自然

〈表２〉音楽教材の分類（歌詩の内容から）

イメージの分類		１年	２年	３年	４年	５年	６年
Ⅰ自然現象	①動物	14(41.2)	11(37.9)	6(26.1)	6(25.0)	2(9.1)	0 (0)
	②植物	3(8.8)	1(3.5)	1(4.3)	4(16.7)	0 (0)	1(5.0)
	③自然現象	3(8.8)	4(13.8)	8(34.8)	3(12.5)	6(27.3)	7(35.0)
	計	20(58.8)	16(55.2)	15(65.2)	13(54.2)	8(36.4)	8(40.0)
Ⅱ生活事象	④物質	3(8.8)	2(6.9)	0 (0)	1(4.15)	2(9.1)	1(5.0)
	⑤遊び・スポーツ	2(5.9)	2(6.9)	0 (0)	1(4.15)	1(4.5)	0 (0)
	⑥人と生活	5(14.7)	5(17.2)	2(8.7)	6(25.0)	8(36.4)	8(40.0)
	計	10(29.4)	9(31.0)	2(8.7)	8(33.3)	11(50.0)	9(45.0)
Ⅲ思想・感情・抽象	⑦夢・物語	3(8.8)	2(6.9)	4(17.4)	3(12.5)	3(13.6)	3(15.0)
	⑧感情	0 (0)	2(6.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	⑨感覚	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	⑩抽象概念	1(3.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	4(11.8)	4(13.8)	4(17.4)	3(12.5)	3(13.6)	3(15.0)
	⑪その他	0 (0)	0 (0)	2(8.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計		34(100)	29(100)	23(100)	24(100)	22(100)	20(100)

（ ）内の数字は％

現象（７曲）という結果であった。１・２年生では圧倒的に多い「動物」に関する歌が学年が高くなるにつれて少なくなる傾向が見られ，６年生では一曲も取り上げられておらず，「自然現象」「人と生活」に関する歌が多くなっている。

また，大きな三つの分類Ⅰ自然現象，Ⅱ生活事象，Ⅲ思想・感情・抽象から見ると，どの学年にも三つの分類に属する歌が見られ，幅広く選ばれていることがわかり，表現運動の題材として多様な選択が可能であると考えられる。

(2)　歌詞の分析

歌詞を分析した結果，歌の形式を次の５パターンに分類することができた。①主体１－動詞１（歌詩の中に主体となる言葉が一つとその主体の動詞となる言葉が一つ存在する），②主体１－動詞２以上（歌詞の中に主体となる言葉が一つとその動詞となる言葉が二つ以上存在する），③主体２以上（主体となる言葉が二つ以上存在する），④イメージ（①～③の構造には含まれず，ある物・事象をイメージする多くの言葉により構成されている），⑤動作（主体が明記されておらず，動きとなる言葉が主である）である。

①主体１－動詞１のパターンは，さらに次の５つに分類することができた。一つめは，はちーとぶ（♪ぶんぶんぶん）のように主体が動物で動詞は動物の動きや様子を表したものである。

二つめは，ちゅうりっぷーさいた（♪ちゅうりっぷ）のように主体が植物で動詞は植

〈表３〉歌詩の分類

（　）内の数字は％

		１学年	２学年	３学年	４学年	５学年	６学年
①主体１－動詞１	動物	めだかの学校 ことりのうた ぞうさんのさんぽ ぶんぶんぶん かたつむり すずむしのでんわ しゃべるでほい	かっこう かえるのがっしょう こおろぎ たつのおとしご いもむしごろごろ	うさぎ	まきばの子牛	小鳥ならば はばたけ鳥	
	植物	ちゅうりっぷ	木のはのゆうびん	かぼちゃ	いろんな木の実		エーデルワイス
	自然	きらきらぼし	春がきた 山びこごっこ	春の小川 雪のおどり どこかで春が	春の風 音のカーニバル		
	物質	こいのぼり ばすばすはしる ひのまる				こいのぼり	
	人間		山のポルカ	あわてんぼうの歌	ティンティララ		
		12(35.3)	9(31.0)	6(26.1)	5(20.8)	3(13.7)	1(5.0)
②主体１－動詞２以上	動物	ちょうちょう ぺんぎんさん こいぬのマーチ	小ぎつね こぐまの二月		とんび まいごのこひつじ きょうりゅうとチャチャチャ		
	植物	ひらいたひらいた			もみじ		
	自然					星の世界	星空はいつも
	物質	おもちゃのちゃちゃちゃ	だるまさん タンブリンのわ シャボン玉		みんなのうちゅう船	気球よ ぼくらの夢のせて	風を切って
	人間		おむすびころりん あわてんぼうのサンタクロース	おかしのすきなまほう使い かさじぞう 友だちシンドバッド	ちびっこカウボーイ	走れメロス	
		5(14.7)	7(24.1)	3(13.0)	6(25.0)	4(18.2)	2(10.0)
③主体２以上	動物	いぬのおまわりさん こぶたぬきつねこ おんまはみんな 三びきのこぶた	ぞうさんとこりす 虫のこえ たぬきのたいこ	かえるのぴょんた いるかはざんぶこ こねこと小鳥 ゆかいなまきば ゆかいな木きん	緑のしま馬 ジャンボゴリラと竹の子		
	植物	どんぐりさんのおうち					
	自然			森の中で			
	人間					グリーングリーン	勇気一つを友にして
	自・自					だれも知らない	
	植・人	もりのくまさん			つるのおん返し		
		6(17.6)	3(10.4)	6(26.1)	3(12.5)	2(9.1)	1(5.0)
④イメージ		うみ そろそろはるですよ たなばたさま たきび おしょうがつ うれしいひなまつり あいあい	アイアイ 夕やけこやけ 春っていいね ともだちのうた なかよしマーチ たのしいね	あの青い空のように あの雲のように ふじ山 春のまきば 茶つみ もしも海が空ならば ドレミ 歌えバンバン	さくらさくら アマリリス まきばの朝 冬の歌 ゴーゴーゴー 茶色のこびん パレードホッホー 友だちはいいな 子どもの世界	青空へのぼろう それは地球 林の朝 冬げしき スキーの歌 口ぶえふいて 静かにねむれ 子もり歌 大空がむかえる朝 グッディグッバイ いいね朝は ほたるの光	おぼろ月夜 越天楽今様 風に向かい光に向かい 大空賛歌 夢をのせて 赤いやねの家 アンデスの祭り われは海の子 ふるさと さよなら友よ さようなら 旅立つ日に あおげばとうとし 歌よありがとう つばさをください 銀河鉄道の歌
		7(20.6)	6(20.7)	8(34.8)	9(37.5)	12(54.5)	16(80.0)
⑤動作		じゃんけんぽん けんけんぱ てとてであいさつ とんくるりん ぱんくるりん	かくれんぼ はしの上で さんぽ えがおできょうも		おどろ楽しいポーレチケ	ゆかいに歩けば	
		4(11.8)	4(13.8)	0(0)	1(4.2)	1(4.5)	0(0)
合計		34(100)	29(100)	23(100)	24(100)	22(100)	20(100)

物の動きを表したものである。

三つめは，春ーきた（♪春がきた）のように主体が自然現象で動詞は自然現象の動きや状態を表したものである。

四つめは，ばすーはしる（♪ばすばすはしる）のように主体が物質で動詞は物質の動きを表したものである。

五つめは，あわてんぼうーおつかいする（♪あわてんぼうの歌）のように主体が人間で動詞は人の動きや行動を表したものである。

②主体1ー動詞2以上のパターンも①と同様にさらに5つに分類することができる。しかし，こいぬーなめる・ころぶ・なく・じゃれる（♪こいぬのマーチ）のように動詞が2以上存在する点で①の場合と異なっている。

③主体2以上のパターンは，さらに6つに分類することができる。一つめは，ぞうさんー来た・歌う・歩く，こりすー来た・歌う・歩く（♪ぞうさんとこりす）のように主体がいずれも動物になっている。

二つめは，どんぐり，そらまめ（♪どんぐりさんのおうち）のように主体がいずれも植物になっている。

三つめは，春ー来る，夏ー来る，秋ー来る，冬ー来る（♪森の中で）のように主体がいずれも自然現象となっている。

四つめは，ぼくー語り合った・知った・守った・知る・語り合う，パパー言った・出かけた（♪グリーングリーン）のように主体がいずれも人間となっている。

五つめは，なぎさーうつしておくれ，魚ーきかせておくれ，夜空ー歌っておくれ（♪だれも知らない）のように主体が動物と自然現象になっている。

六つめは，おじょうさんー出会った・落とした・歌う，くまさんー言う・ついてくる（♪森のくまさん）のように主体が動物と人間になっている。

＜表3＞は各歌唱教材がどのパターンに含まれるかを示したものである。①のパターンは学年が進むにつれて少なくなり，④のパターンは学年が進むにつれて多くなっている。また，⑤のパターンが1・2学年に多く見られる。1・2学年は主体と動きの構造がはっきりした歌や動作が歌詞に含まれる歌が多く，学年が進むにつれて，特定した主体がなく，イメージをもとに歌われたものが多くなっていると考えられる。

4．表現運動の指導事例の分析

(1)　題材の分類

＜表4－1＞からわかるように，1・2学年では，57事例中56事例に題材が明記されており，①動物，④物質に関する題材が多く，物質の中では「のりもの」「新聞紙」「おもちゃ」「粘土」が複数取り上げられていた。「3(1)音楽教材の分類」と比較すると，「動物」に関するものが多いという点で類似していた。また，「だるまさんがころんだ」「がさごそがさごそ何がいた」「とんとんとん何の音？」「ひらいたひらいた○○がでてくるかな」のように，表現するものが次々に変化していくゲーム感覚のものが他の学年と比べて多いという特徴が見られる。

＜表4－2＞からわかるように，3・4学年では，87事例中に71事例に題材が明記されており，④物質，⑥人と生活に関する題材が圧倒的に多く，特に「ポップコーン」「新聞紙」「忍者」「祭り」が複数取り上げられていた。「3(1)音楽教材の分類」と比較すると，「人と生活」に関するものが4学年で多いという点で類似しているが，その他に類似点は見られなかった。

＜表4－3＞からわかるように，5・6学年では，59事例中42事例に題材が明記されており，③自然現象，⑦夢・物語に関する題材が多く，その中で「天気予報」「大造じいさんとガン」が複数取り上げられていた。また，「自然現象」に関するものが多いという点が「3(1)音楽教材の分類」と類似していた。

「ダンス用語とイメージ」[7]にも同様の結

〈表４－１〉題材の分類（１・２学年）

⑧感情⑨感覚⑩抽象概念は該当なし　　（　）内の数字は％

① 動物	② 植物	③自然現象	④ 物質	⑤遊び・スポーツ	⑥人と生活	⑦夢・物語	⑪その他	合計
・どうぶつれっしゃでぼうけんだ 1 ・うさぎ 1 ・動物の親子 1 ・学校の動物 1 ・せわをしている生き物 1 ・つばめのお母さんごっこ 1 ・虫つかまえた 1 ・お池の友だち 1 ・森のお話 1 ・小鳥ごっこ 1 ・卵から…が生まれた 1 ・花とやってくる虫たち 1	・おはなしいっぱいあさがお 1	・春みーつけた 1 ・いいものみつけた（春みつけ） 1 ・秋みつけ 1 ・冬みつけ 1 ・雷機がおこった 1	・のりもの 2 ・新聞紙 3 ・石けん 1 ・おもちゃ 2 ・粘土 2 ・ボールのゆくえ 1 ・楽しいゆうえんち 1	・あぶりだし 1 ・獲源地ゲーム 1 ・みんなでじゃんけん 1 ・指遊び（１２の３） 1 ・だるまさんがころんだ 2 ・ぐるっとまわってネコの目 2 ・プールで泳ごう 1 ・冬の遊び 1	・洗たくごっこ 1 ・買い物ごっこ 1 ・乗り物とお客さん 1 ・みんな地球の子ども 1 ・夏のくらしと冬のくらし	・宇宙探検に出発 1 ・おもちゃの国であそぼう 1 ・ジュレンジャー 1 ・夢の世界へ行こう 1 ・お話づくり（スイミー） 1 ・おかしの国へ行こう 1	・がさごそがさごそ何がいた 2 ・とんとんとん何の音？ 1 ・ひらいたひらいた○○がでてくるかな 1 ・スキップサンドウイッチ 1	
12(21.4)	1(1.8)	5(8.9)	12(21.4)	10(17.9)	5(8.9)	6(10.7)	5(8.9)	
18(32.2)			27(48.2)			6(10.7)	5(8.9)	56
								(100)

〈表４－２〉題材の分類（３・４学年）

②植物⑧感情⑨感覚⑩抽象概念は該当なし

① 動物	③自然現象	④ 物質	⑤遊び・スポーツ	⑥人と生活	⑦夢・物語	⑪ そ の 他	合計
・鳥たちの生活 1 ・チョウの一生 3	・雷 3 ・嵐 1 ・夏のスケッチ 1 ・海の生活 1 ・緑の風にのって 1 ・野原であそぼう 1	・ポップコーン 4 ・新聞紙 4 ・わたがし 1 ・紙粘土 1 ・時計 2 ・シャボン玉 2 ・ロボット 2 ・ロケット発射 1 ・みこし 1 ・花火 2 ・機械 1 ・円と球 1 ・磁石の性質 1	・グーチョキパー 2 ・道形遊び 1	・忍者 5 ・祭り 6 ・料理づくり 3 ・ピエロの曲芸 1 ・消防車出動 1 ・町となかよし 1 ・パレード 2 ・雑で書こう 1 ・洗たく 2 ・自動車と水たまり 1	・宇宙探検 2 ・魔法の種 1 ・タイムトラベラー 1 ・どんな国についたかな 1 ・宝島探検 1 ・チョウのたんえん○○へＧｏ 1	・この音なあに？ 1 ・リズムにのって表現しよう 1 ・□ができるまで 1	
4(5.6)	8(11.3)	23(32.4)	3(4.2)	23(32.4)	7(9.9)	3(4.2)	
12(16.9)		49(69.0)			7(9.9)	3(4.2)	71
							(100)

〈表４－３〉題材の分類（５・６学年）

⑧感情⑨感覚は該当なし

① 動物	② 植物	③自然現象	④ 物質	⑤遊び・スポーツ	⑥人と生活	⑦夢・物語	⑩抽象概念	⑪その他	合計
・メダカの一生 1 ・バクテリアの世界 1	・われは草なり（詩） 2 ・りんご（詩） 1 ・大イチョの木 1 ・いちょう（短歌） 1	・川 1 ・火山の爆発 1 ・嵐 1 ・よみがえる野川 1 ・押しつぶされる空気 1 ・四季のうつりかわり 1 ・自然の働き 1 ・天気の変化 1 ・天気予報 2 ・よみがえる国土 1 ・大変だ私たちの地球 1	・卒業文集 1 ・ミシン 1 ・ミラーの世界 1 ・自動車ができるまで 1	・スポーツ 1 ・守る一攻撃 1	・綱引き 1 ・長崎 1 ・オートメーション工場 1 ・…を捜す 1	・大遠じいさんとガン 3 ・モチモチの木 1 ・やまなし 1 ・山の魔王の宮殿 1 ・狼の物語 1 ・○○物語 1	・オノマトペカルタ 1 ・三角形と四角形 1	・…の音がなりひびく 1 ・ぶつかりあう力と力 1 ・…づくり 1	
2(4.8)	5(11.9)	12(28.6)	4(9.5)	2(4.8)	4(9.5)	8(19.0)	2(4.8)	3(7.1)	
19(45.3)			10(23.8)			10(23.8)		3(7.1)	42
									(100)

果がでており，学年によって題材の傾向が異なることが伺える。

(2)　課題の分類

抽出した課題を見ると，感情価・動きの質に関する課題と運動課題と群課題に分類することができた。<表５>からわかるように，１・２学年では，「堅い感じ」という動きの質に関する課題が１事例，３・４学年では，感情価・動きの質に関する課題が18事例，運動課題が16事例，群課題が１事例という結果であった。感情価・動きの質に関する課題は「にぎやかにはずむ感じ」「軽くてやわらかい感じ」「かたい感じ」「かたい機械的な感じ」が複数取り上げられており，運動課題は「走る－止まる」「走る－跳ぶ」「走る－跳ぶ－止まる」「伸びる－縮む」が複数取り上げられていた。

５・６学年では，感情価・動きの質に関する課題が２事例，運動課題が13事例，群課題が１事例という結果であった。運動課題の「走る－跳ぶ」「走る－跳ぶ－転がる」が複数取り上げられていた。

１・２学年は課題からではなく，具体的な題材から指導されることが多く，３・４学年は感情価・動きの質に関する課題，運動課題の両方から指導されており，５・６学年は運動課題から多く指導されていると考えられる。

(3)　動きを引き出す刺激

抽出した刺激を見ると，①物体，②音，③視覚刺激，④言語，⑤体験・遊びに分類することができた。

〈表５〉課題の分類

	1・2学年		3・4学年		5・6学年	
①感情価・動きの質課題	・堅い感じ	1	・にぎやかにはずむ感じ	2	・○○が激しい	1
			・楽しくにぎやかな感じ	1	・スローモーションーハイスピード	1
			・ひょうきんな楽しくにぎやかな感じ	1		
			・やわらかい感じ	1		
			・軽くてやわらかい感じ	4		
			・重くてやわらかい感じ	1		
			・鋭く跳び散るような感じ	1		
			・勢いよく弾けるような感じ	1		
			・身軽で素早い感じ	1		
			・かたい感じ	2		
			・かたい機械的な感じ	2		
			・激しい感じ	1		
		1		18		2
②運動課題			・走る―止まる	5	・走る―跳ぶ	2
			・走る―跳ぶ	2	・走る―跳ぶ―転がる	2
			・走る―跳ぶ―止まる	2	・跳ぶ―□	1
			・跳ぶ―転がる	1	・跳びだす	1
			・走る―跳ぶ―転がる	1	・パッとよけて―跳ぶ	1
			・伸びる―縮む	2	・跳びだす―回る	1
			・のびるのびる	1	・踏み鳴らず―跳ぶ―転がる	1
			・跳びだす―□	1	・伸びる―縮む―回る	1
			・いろいろなスキップステップ	1	・押す―引く	1
					・捻る―引っぱりあう―離れる	1
					・○○を見る	1
		0		16		13
③群			・集まる―離れる	1	・かたまる―とびちる	1
		0		1		1
合計		1		35		16

〈表６〉動きを引き出す刺激

	1・2学年		3・4学年		5・6学年	
①物質	・新聞紙	1	・ティッシュペーパー	1	・新聞紙	1
	・おもちゃ	1	・新聞紙	1		
			・時計	1		
		2		3		1
②音	・音	2	・音	1	・音楽	1
			・音楽	1		
		2		2		1
③視覚	・ビデオ	1	・ビデオ	7	・ビデオ	2
			・写真	1	・写真	1
			・チョウ	2		
		1		10		3
④言語			・木	1	・短歌	1
					・擬音語・擬態語	1
		0		1		2
⑤体験・遊び	・粘土をつかった造形あそび	1	・体験	3		
	・野外観察	1	・野外観察	1		
	・歌遊び	4				
		6		4		0
合計		11		20		7

〈表７〉子どもからでてきたイメージの分類

（　）内の数字は％

分類項目		1・2学年	3・4学年	5・6学年
①動物	・全般	1（0.4）	1（2.5）	3（1.3）
	・ほ乳類	28（12.5）	7（1.7）	10（4.3）
	・鳥類	15（6.7）	6（1.5）	1（0.4）
	・はちゅう類	8（3.6）	5（1.2）	2（0.9）
	・魚類	7（3.1）	5（1.2）	2（0.9）
	・虫類	19（8.5）	12（3.0）	3（1.3）
	・その他　無脊椎動物	5（2.2）	13（3.2）	1（0.4）
		83（37.1）	49（12.2）	22（9.4）
②植物		24（10.7）	19（4.7）	10（4.3）
③自然現象	・刺激	0（0）	3（0.7）	1（0.4）
	・自然・物体・物質	10（4.7）	37（9.2）	51（21.9）
	・宇宙・空	8（3.6）	17（4.2）	6（2.6）
	・抽象	0（0）	2（0.5）	1（0.4）
		18（8.0）	59（14.7）	59（25.3）
④物質	・物品	0（0）	1（0.2）	1（0.4）
	・資材	2（0.9）	12（3.0）	8（3.4）
	・衣料	2（0.9）	13（3.2）	5（2.1）
	・食料	13（5.8）	39（9.7）	25（10.7）
	・住居	1（0.4）	6（1.5）	3（1.3）
	・道具	25（11.2）	37（9.2）	28（12.0）
	・燈火	22（9.8）	36（9.0）	13（5.6）
	・地類	1（0.4）	2（0.5）	1（0.4）
		66（29.5）	146（36.4）	84（36.1）
⑤遊び・スポーツ	・遊び	11（4.9）	13（3.2）	4（1.7）
	・スポーツ	5（2.2）	17（4.2）	5（2.1）
		16（7.1）	30（7.5）	9（3.9）
⑥人と生活	・身体	0（0）	3（0.7）	1（0.4）
	・主体	5（2.2）	15（3.7）	5（2.1）
	・行為	0（0）	19（4.7）	24（10.3）
		5（2.2）	37（9.2）	30（12.9）
⑦夢・物語		12（5.4）	18（4.5）	2（1.0）
⑧感情		0（0）	4（1.0）	3（1.0）
⑨感覚		0（0）	0（0）	1（0.5）
⑩抽象概念		0（0）	39（9.7）	13（5.6）
合計		224（100）	401（100）	233（100）

＜表６＞からわかるように，１・２学年では11事例であり，その内６事例が「粘土をつかった造形あそび」「野外観察」「歌遊び」などの⑤体験・遊びから動きを引き出していた。

３・４学年は20事例であり，その内10事例が「ビデオ」「写真」「チョウ（実物）」などの③視覚から動きを引き出していた。

５・６学年では７事例であり，その内３事例が「ビデオ」「写真」などの③視覚，２事例が「短歌」「擬音語･擬態語」の④言語から動きを引き出していた。

１・２学年では体験から動きを引き出し，学年が進むにつれて，視覚や言語から動きを引き出していた。この結果は「２．他教科から題材を取り上げている指導事例」の結果と同様の傾向が見られた。

(4)　子どもからでてきたイメージの分類

＜表７＞からわかるように，子どもからでてきたイメージの種類は，１・２学年が224種類(31事例)，３・４学年が401種類(36事例)，５・６学年が233種類（20事例）であり，１・２学年では①動物（特にほ乳類・虫類・鳥類），④物質（特に道具・燈火・食料）からのイメージが多く，３・４学年では，④物質（特に食料・道具・燈火），③自然現象（特に自然、物体、物質）からのイメージが多く，５・６学年では，④物質(特に道具・食料・燈火)，③自然現象（特に自然、物体、物質）からのイメージが多いという結果が得られた。子どもからでてきたイメージは題材との関係が深いのではないかと考え，「４．(1)題材の分類」と比較すると，１・２学年では①動物，④物質が多いという点で共通しており，３・４学年では④物質，５・６学年では③自然現象が多いという点で類似していた。

また，学年が進むにつれて１・２学年に多くでている「動物」「植物」「夢・物語」がだんだん少なくなり，特に「動物」の著しい減少が見られ，逆に「自然現象」「人と生活」が多くなっている。

３つ以上の題材・課題からでてきたイメージを学年別にまとめたものが＜表８＞である。＜表８＞からわかるように，１・２学年と３・４学年の両方にでてきたイメージは「ねこ」「ぞう」「鳥」「かえる」「花」「たんぽぽ」「石ころ」「波」「ロボット」が挙げられ，３・４学年と５・６学年の両方にでてきたイメージは「風」「竜巻」「波」「ポップコーン」「花火」が挙げられ，全ての学年ででてきたイメージは「波」が挙げられた。

１・２学年は子どもたちの生活の身近に存在するものが多く，５・６学年は自然に関するものが多く，身のまわりの環境に目が向けられていると考えられる。また，３・４学年には１・２学年，５・６学年の両方の特徴が見られた。

(5)　子どもからでてきた動きの分類

＜表９－１・２・３＞からわかるように，全身の動きとして１・２学年では「歩く」「走る」「とぶ」「まわる」「転がる」「ねる」「縮む」「伸びる」「揺れる」「捻じる」，３・４学年では「歩く」「走る」「とぶ」「まわる」「転がる」，５・６学年では「走る」「とぶ」「まわる」「転がる」「ねる」「伸びる」が挙げられた。また，各部位の動きとして，１・２学年では「腕をのばす」「手を上げる・下げる・広げる・こする・ゆらす」「指をたてる」「足を上げる・からまる・ゆらす」「背中を丸める」「首をゆする」，３・４学年では「足を上げる」，５・６学年では「手を上げる」「足を上げる」が挙げられた。しかし，事例の中には，子どもの動きまで明記したものが203事例中23事例と少なく，十分に分

〈表８〉３つ以上の題材・課題にでてきたイメージ

			１・２学年	３・４学年	５・６学年
① 動物	生物	ほ乳類	・うさぎ ・ねこ ・いぬ ・ぞう	・たまご ・ねこ ・ぞう	
		鳥類	・鳥 ・にわとり	・鳥	
		はち虫類	・かえる ・おたまじゃくし ・へび ・かめ	・かえる	
		魚	・魚		
		虫類	・ちょうちょう ・かぶと虫 ・はち ・だんご虫 ・トンボ ・カマキリ ・あり		
		無脊椎	・ザリガニ ・かたつむり	・かに	
② 植物			・木 ・花 ・ひまわり ・アサガオ ・たんぽぽ	・花 ・たんぽぽ	
③ 自然現象	自然・物体・物質		・石ころ ・波	・石ころ ・水 ・風 ・ハリケーン ・竜巻 ・雲 ・波 ・炎	・風 ・嵐 ・台風 ・地震 ・噴火 ・雷 ・竜巻 ・波
	宇宙空		・道	・火山	・滝
④ 物質	資材			・バネ ・ごみ ・ゴム	・われたガラス
	食料		・おだんご	・ポップコーム ・綿あめ ・かき氷 ・もち	・ポップコーン
	道具			・ボール ・ヨーヨー ・風船 ・花火 ・シャボン玉	・花火
	乗物	火	・オートバイ ・自動車 ・飛行機 ・船 ・ロボット	・ロボット ・ロケット ・扇風機 ・洗濯機	
⑤ 人間	球			・忍者	
	物			・祭り ・踊り	
⑥ 社会				・人ごみ	

〈表９－１〉子どもからでてきた動き（１・２学年）

	子どもからでてきた動き		題　　材
全身	歩く	・歩きまわる	・一学期をふりかえって、夢の世界へ行こう
	走る	・走りまわる	・のりもの、一学期をふりかえって
		・走る	・新聞紙、一学期をふりかえって、夢の世界へ行こう
		・そうっと走る	・春み一つけた
	とぶ	・ジャンプ	・のりもの
		・とぶ	・宇宙たんけんに出発、洗たくごっこ、がさごそがさごそ何がいた、うさぎとなかよし
		・はねる	・洗たくごっこ
	まわる	・まわる	・のりもの、春み一つけた、一学期をふりかえって洗たくごっこ、がさごそがさごそ何がいた
	転がる	・転がる	・のりもの
		・ひっくりかえる	・がさごそがさごそ何がいた
	ねる	・ねそべっている	・のりもの
	縮む	・縮む	・洗たくごっこ
	伸びる	・伸びる	・洗たくごっこ
	揺れる	・揺れる	・洗たくごっこ
	ねじる	・ねじる	・一学期をふりかえって、洗たくごっこ
腕	伸ばす	・腕をピンと伸ばす	・のりもの
手	上げる	・上げる	・春み一つけた、がさごそがさごそ何がいた
	下げる	・たらす	・がさごそがさごそ何がいた
		・上下する	・春み一つけた
	広げる	・広げる	・一学期をふりかえって
	こする	・こする	・秋みつけ
	ゆらす	・ゆらす	・あぶりだしごっこ
指	立てる	・ピーン	・夢の世界へ行こう
足	上げる	・上げる	・がさごそがさごそ何がいた
	からまる	・からまる	・洗たくごっこ、おはなしいっぱいあさがお
	ゆらす	・ブラブラさせる	・あぶりだしごっこ
背中	丸める	・丸める	・がさごそがさごそ何がいた
首	ゆする	・ゆする	・あぶりだしごっこ

〈表９－２〉子どもからでてきた動き（３・４学年）

	子どもからでてきた動き		題　　材
全身	歩く	・ねり歩く	・みこし
	走る	・走る	・新聞紙から、忍者の国
	とぶ	・とぶ	・忍者の国
		・ジャンプ	・新聞紙から、花火、忍者の国
		・はずむ	・みこし
	まわる	・まわる	・花火
	転がる	・転がる	・忍者の国
足	上げる	・上げる	・みこし

〈表９－３〉子どもからでてきた動き（５・６学年）

	子どもからでてきた動き		題　　材
全身	走る	・走る	・○○を見る
	とぶ	・とぶ	・跳ぶ一□、○○を見る、短歌をおどろう
		・とびはねる	・跳ぶ一□、○○を見る
	まわる	・まわる	・跳ぶ一□、○○を見る、短歌をおどろう
	転がる	・転がる	・跳ぶ一□、○○を見る
	ねる	・ねころぶ	・短歌をおどろう
	伸びる	・伸びる	・短歌をおどろう
手	上げる	・上げる	・短歌をおどろう
足	上げる	・上げる	・短歌をおどろう

析することができなかった。

(6) 指導言語の分類

<表10>からわかるように，指導言語の種類は，1・2学年では308種類（44事例）で，⑨イメージ，⑧擬音語・擬態語，②空間，3・4学年では312種類（38事例）⑧擬音語・擬態語，⑨イメージ，②空間，5・6学年では181種類（20事例）で②空間，⑧擬音語・擬態語，⑨イメージの順に多いことから，どの学年においても「イメージ」「擬音語・擬態語」「空間」を指導言語に多く使っていることがわかる。

また，学年が進むにつれて「空間」「時性」「力性」「身体部位」「友達との関係」が多くなり，「イメージ」が少なくなっている。1・2学年ではイメージ，擬音語・擬態語から多く指導されており，学年が進むにつれて擬音語・擬態語，運動の質から多く指導されていると考えられる。

〈表10〉指導言語の分類

（　）内の数字は％

要　因	項　目	1・2学年	3・4学年	5・6学年
①動き	・歩く	1(0.3)	1(0.3)	2(1.1)
	・走る	1(0.3)	2(0.6)	1(0.6)
	・スキップ	1(0.3)	1(0.3)	0(0)
	・とぶ	5(1.6)	3(1.0)	3(1.7)
	・滑る	1(0.3)	1(0.3)	0(0)
	・伸びる	1(0.3)	1(0.3)	2(1.1)
	・縮む	0(0)	1(0.3)	1(0.6)
	・捻じる	4(1.3)	1(0.3)	2(1.1)
	・回る	3(1.0)	2(0.6)	2(1.1)
	・揺れる	1(0.3)	1(0.3)	1(0.6)
	・曲がる	1(0.3)	1(0.3)	0(0)
	・くっつく	1(0.3)	0(0)	0(0)
	・手をあげる	0(0)	1(0.3)	1(0.6)
	・腕をふりまわす	0(0)	1(0.3)	0(0)
		20(6.5)	17(5.4)	15(8.3)
②空間	・水準	12(3.9)	20(6.4)	13(7.2)
	・面	5(1.6)	3(1.0)	9(5.0)
	・方向	7(2.3)	11(3.5)	10(5.5)
	・経路	3(1.0)	2(0.6)	3(1.7)
	・広さ	7(2.3)	10(3.2)	11(6.1)
		34(11.0)	46(14.7)	46(25.4)
③時性	・急変	6(1.9)	7(2.2)	2(1.1)
	・持続的	0(0)	2(0.6)	2(1.1)
	・速い	5(1.6)	4(1.3)	7(3.9)
	・遅い	3(1.0)	4(1.3)	3(1.7)
	・加速	1(0.3)	0(0)	0(0)
		15(4.9)	17(5.4)	14(7.7)
④力性	・強い	8(2.6)	9(2.9)	10(5.5)
	・弱い	7(2.3)	11(3.5)	4(2.2)
		15(4.9)	20(6.4)	14(7.7)
⑤身体の部位		10(3.2)	16(5.1)	13(7.2)
⑥身体の形		2(0.6)	2(0.6)	0(0)
⑦友達との関係		14(4.5)	16(5.1)	11(6.1)
⑧擬音語・擬態語	・人の動き	19(6.2)	7(2.2)	4(2.2)
	・感情・表情	1(0.3)	0(0)	0(0)
	・物の動き・変化	31(10.1)	43(13.8)	10(5.5)
	・形状・状態	26(8.4)	35(11.2)	18(9.9)
	・音声・擬音	16(5.2)	21(6.7)	11(6.1)
	・程度	2(0.6)	2(0.6)	0(0)
		95(30.8)	108(34.6)	43(23.8)
⑨イメージ	・動物	30(9.7)	10(3.2)	0(0)
	・植物	11(3.6)	7(2.2)	2(1.1)
	・自然現象	12(3.9)	12(3.8)	12(6.6)
	・物質	23(7.5)	24(7.7)	9(5.0)
	・遊び・スポーツ	7(2.3)	2(0.6)	1(0.6)
	・人と生活	4(1.3)	5(1.6)	1(0.6)
	・夢・物語	16(5.2)	10(3.2)	0(0)
	・感情	0(0)	0(0)	0(0)
	・感覚	0(0)	0(0)	0(0)
	・抽象概念	0(0)	0(0)	0(0)
		103(33.4)	70(22.2)	25(13.8)
合　計		308(100)	312(100)	181(100)

<表11>は①動き～⑦友達との関係に属する実際の指導言語を学年別にまとめたものである。

①動きを変化させる指導言語の中で，どの学年にも共通して使われている言語として，「歩く」「走る」「跳ぶ」「ジャンプ」「伸びる」「捻じる」「回る」「転がる」「揺れる」が挙げられ，これらは動きの基本であると考えられる。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として「はねる」「滑る」「曲げる」が挙げられ，3・4学年と5・6学年にのみ共通して使われている言語として「縮む」が挙げられた。

②空間を変化させる指導言語の中で，どの学年にも共通して使われている言語として，水準を意識した「高い」「低い」，方向を意識した「あちこち」「右左」，広さを意識した「広い」「大きい」「小さい」「その場で」「遠く」が挙げられたが，面・経路を意識した言語の中で対象となる言語は見られなかった。これは，面・経路を意識した言語数が少なかったことによると考えられる。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として，水準を意識した「大きい」「小さい」「上の方」「土の中」面を意識した「向き」，方向を意識した「あっち」「こっち」「前後」，広さを意識した「空」が挙げられ，3・4学年と5・6学年にのみ共通して使われている言語として，水準を意識した「天井まで」「立つ」「座ったままで」「寝ながら」，面を意識した「上」「横」，広さを意識した「体育館いっぱい」が挙げられた。学年が進むにつれて水準の中の姿勢に関する言語，空間を広く使う言語が多くなっている。

また，空間を変化させる指導言語の中には，（土の中よ）（葉っぱの下に）などのように間接的に空間を変化させる指導言語

〈表11〉指導言語―運動の質（全学年）

要因		1・2学年	3・4学年	5・6学年
①動き（全身）	歩く	・歩く	・歩く	・足ぶみ ・歩く
	走る	・走る	・走る ・走り回る	・走る
	スキップ	・スキップ	・スキップ	
	とぶ	・跳ぶ ・はねる ・ジャンプ ・回転ジャンプ ・はずむ	・跳ぶ ・はねる ・ジャンプ	・跳ぶ ・跳び出す ・ジャンプ
	投げる	・投げる	・投げる	
	伸びる	・伸びる	・伸びる	・伸びる ・ひっぱる
	縮む		・縮む	・縮む
	捻じる	・捻じる ・倒れた ・ころぶ ・ひっくりかえる	・捻じる	・捻じる ・ひねる
	回る	・回る ・１回転 ・転がる	・回る ・転がる	・回る ・転がる
	揺れる	・揺れる	・揺れる	・揺れる
	曲がる	・曲がる	・曲げる	
	くっつく	・くっつけ		
（部位）	手		・手を上げる	・両手を後ろに上げる
	腕		・腕をふりまわす	
②空間	水準	・高い所 ・低い所 ・大きい ・小さい ・上の方で ・もっと下まで ・しゃがんだ所から ・（土の中よ） ・（床の上に止まる） ・（ほうの上に止まる） ・（草の上に止まる） ・（大空高く）	・高さは ・高く ・低く ・大きい ・小さい ・上の方 ・天井まで届くように ・地面すれすれに ・背伸び ・立つ ・座ったままで ・寝ながら ・伏せ ・（土の中） ・（床下） ・（木に） ・（木の枝に落ちた） ・（高い木の上に） ・（天井に） ・落ちて	・高い所、高く ・低い所、低く ・もっと天井まで ・しゃがんでたよ ・立ったり座ったり ・座ったままで ・寝てる所から起きる ・（地面の上にも） ・（地面をなめるように見て） ・（屋根で） ・（空の上にも）
	面	・いろんな向きに ・空をむいて ・横をむいて ・（葉っぱの下に） ・（葉っぱの上に）	・向きをかえたよ ・ふりかえって ・上の方	・友達の見ない方を見て ・上を見上げて ・上にも下にも ・足の裏を見て ・後にも ・（空中のボールを見ながら） ・（２階の人にも） ・（塀の下から） ・（爆発の山の様子を見ながら）
	方向	・あちこち ・あっちにも ・こっちでも ・右に左に ・後に前に ・後に ・反対にも	・あっちこっち ・あっち ・こっち ・右に左に ・前後 ・上に下に ・上に ・ななめに ・横に ・追った方へも ・いろいろな方向に	・あっちこっち ・右から左から ・後へ ・上へ ・横へ ・向きをかえて ・こっちからむこうに ・空に向かって ・駅の方にも ・西から東へ
	経路	・好きなところへ ・ジグザグ ・真っ直にしか飛べない	・曲がりながら ・急カーブ	・（列になって） ・（曲がり角） ・（長い廊下行ったりもどったり）
	広さ	・広げた ・大きい ・小さい ・ちがう所でも ・その場で ・遠くまで ・（空いっぱいに）	・体育館全部がフライパン ・体育館いっぱいに ・広い ・せまいところに ・大きい ・小さい ・その場で ・遠く ・近く ・（大空へ）	・体育館いっぱい広がって ・広がって ・広々と ・拡大して ・大きい ・小さい ・いろんな場所で ・その場で ・遠くまで ・（窓のすきまから） ・（日本列島のはしからはしまで）

要因		1・2学年	3・4学年	5・6学年
③時性	急変	・パッと* ・サッと* ・ピタッと* ・ピュッ* ・（逃げろ） ・逆さをかえて	・パッと* ・シュッ* ・ピタッ* ・急いで ・急ブレーキ ・急に ・素早く	・パッと* ・（逃げろ）
	持続的		・しだいに ・だんだん*	・続けて ・少しずつ
	速い	・速い ・スピード ・猛スピード ・すごい勢いで ・もっとはやく	・早く ・速い ・（ジェット機より速く） ・勢いよく	・早く ・速く ・フルスピード ・勢いよく ・素早い ・（早送り） ・（巻き戻し）
	遅い	・ゆっくり ・もっとゆっくり ・のっそりのっそり*	・ゆっくり ・スロー ・超スロー ・スローモーション	・ゆっくり ・スロー ・スローモーション
	加速	・だんだん速く		
④力性	強い	・グニューグニュー* ・強い ・よいしょよいしょ ・かたい ・こねこね* ・のっしのっし* ・重い ・ギュー*	・強い ・よいしょ ・かたい ・固まる ・ぎゅっ* ・ピーンとはった* ・厳しい ・するどい ・がちっと*	・（石ころのようにかたくなって） ・グーと* ・がんばる ・ぐんぐん* ・全開パワーよ ・力いっぱいね ・ダダダ* ・ダターン* ・ドドーン* ・バーン*
	弱い	・やわらかい ・ふわっと* ・ふわふわ* ・ふわりふわり* ・そうっと* ・スーイスーイ* ・（空気がぬけてきた）	・やわらかい ・ふわっ* ・ふわふわ* ・ふわり* ・そっと* ・音もなく ・やさしい ・静く ・息も止めて ・（しのび足） ・（そよ風）	・（綿毛のようにフワッと）* ・そっと* ・ふーと* ・力をぬいて
⑤身体の部位		・体全体 ・手 ・腕 ・顔 ・目 ・尻 ・足 ・足の先 ・頭 ・へそ	・体全体 ・体の先 ・手 ・指 ・腕 ・ほっぺ ・首 ・肩 ・背中 ・腹 ・尻 ・足 ・ひざ ・つま先 ・頭 ・へそ	・体全体 ・手 ・ほっぺ ・目 ・あご ・首 ・肩 ・背中 ・尻 ・足 ・ひざ ・足先 ・頭
⑥身体の形		・まあるく ・ほそ長く	・丸く ・細く	
⑦友達との関係		・一人で ・一人は、もう一人は ・二人組 ・友達と二人 ・近くの人と二人組 ・三人組で ・二、三人 ・五人組 ・グループで ・班の人と ・人数を増やして ・友達と ・違うお友達と ・他の人とは違う	・一人で ・二人組 ・三人組 ・二～三人のグループで ・四人グループ ・二～四人のグループで ・グループで ・友達を増やして ・友達と ・ロボット仲間と ・近くの人も ・向かい合って ・見合って ・友達と違う ・反対のこと ・まねして	・一人で ・二人組 ・近くの友達と二人組 ・近くの五人 ・六人で ・男女の六人組 ・友達と五～六人 ・近くの友達と男女一緒で五人か六人 ・グループで ・グループの友達と ・友達と

（　）は間接的に要因を変化させる指導言語
*は⑤の擬音語・擬態語と重複している指導言語

が見られた。

③時性を変化させる指導言語の中で，どの学年にも共通して使われている言語として，急変を意識した「パッ」，速さを意識した「速い」「勢い」，遅さを意識した「ゆっくり」が挙げられたが，持続的・加速を意識した対象となる言語は見られなかった。これは，持続的・加速を意識した言語数が少なかったためと思われる。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として，急変を意識した「ピタッ」が挙げられ，3・4学年と5・6学年にのみ共通している言語として，速さを意識した「早い」，遅さを意識した「スロー」が挙げられた。

全体の傾向を見ると，1・2・3・4学年では急変を意識した言語が多いのに対し，5・6学年では速さを意識した言語が多くなっている。また，急変を意識した言語には擬音語・擬態語が多く使われていた。

〈表12〉指導言語の分類－擬音語・擬態語

要	因	1・2学年	3・4学年	5・6学年
人の動き（全身）	転ぶ　倒れる	2（2.1）	0（0）	0（0）
	伏せる	0（0）	1（0.9）	0（0）
	歩く	2（2.1）	0（0）	0（0）
	動く	7（7.4）	2（1.9）	1（2.3）
	止まる	2（2.1）	1（0.9）	1（2.3）
	震える	1（1.1）	0（0）	0（0）
	投げる	0（0）	1（0.9）	0（0）
	捻る	0（0）	0（0）	1（2.3）
	構える	2（2.1）	1（0.9）	1（2.3）
	引っ張る	1（1.1）	0（0）	0（0）
（口）	開ける	1（1.1）	1（1.1）	0（0）
	食べる	1（1.1）	0（0）	0（0）
		19(20.0)	7（6.5）	4（9.3）
感情・表情		1（1.1）	0（0）	0（0）
物の動き・変化	進む	4（4.2）	4（3.7）	1（2.3）
	飛ぶ　舞う	7（7.4）	10（9.3）	2（4.7）
	滑る	1（1.1）	0（0）	0（0）
	転がる	4（4.2）	4（3.7）	1（2.3）
	回る	2（2.1）	6（5.6）	1（2.3）
	巻く	1（1.1）	1（0.9）	0（0）
	落ちる	2（2.1）	2（1.9）	2（4.7）
	剥れる	1（1.1）	0（0）	0（0）
	揺れる	1（1.1）	3（2.8）	0（0）
	伸びる	2（2.1）	2（1.9）	0（0）
	消える	0（0）	2（1.9）	1（2.3）
	開く	1（1.1）	2（1.9）	0（0）
	切る	1（1.1）	2（1.9）	0（0）
	打つ　叩く	2（2.1）	3（2.8）	0（0）
	はがす	0（0）	0（0）	1（2.3）
	貼る　くっつく	1（1.1）	1（0.9）	1（2.3）
	押さえる	1（1.1）	1（0.9）	0（0）
		31(32.6)	43(39.8)	10(23.3)
形状・状態	張る	0（0）	1（0.9）	1（2.3）
	萎える	1（1.1）	1（0.9）	0（0）
	突きでる	1（1.1）	0（0）	0（0）
	膨れる	0（0）	0（0）	1（2.3）
	おうとつ	0（0）	0（0）	1（2.3）
	へこむ	1（1.1）	0（0）	0（0）
	くねる　曲がる	3（3.2）	1（0.9）	0（0）
	硬い	1（1.1）	1（0.9）	0（0）
	乱雑　雑然	1（1.1）	2（1.9）	0（0）
	溶ける	0（0）	2（1.9）	0（0）
	流れる	1（1.1）	2（1.9）	3（7.0）
	跳ねる	1（1.1）	3（2.8）	5（11.6）
	沈む	1（1.1）	0（0）	0（0）
	ぬめる	1（1.1）	2（1.9）	1（2.3）
	泡立つ	1（1.1）	1（0.9）	0（0）
	除る	2（2.1）	4（3.7）	2（4.7）
	光る	3（3.2）	2（1.9）	0（0）
	浮く	2（2.1）	2（1.9）	0（0）
	上がる　立ち込める	2（2.1）	1（0.9）	2（4.7）
	吹くきでる	1（1.1）	4（3.7）	2（4.7）
	吹きでる	2（2.1）	1（0.9）	0（0）
	燃える	0（0）	1（0.9）	0（0）
	焼く	1（1.1）	4（3.7）	0（0）
		26(27.4)	35(32.4)	18(41.9)
音声・擬音	鳴く	2（2.1）	0（0）	0（0）
	鳴る	4（4.2）	7（6.5）	5（11.6）
	響く	1（1.1）	2（1.9）	2（4.7）
	ぶつかる	4（4.2）	6（5.6）	2（4.7）
	擦れる	2（2.1）	4（3.7）	0（0）
	爆発する　割れる	3（3.2）	2（1.9）	2（4.7）
		16(16.8)	21(19.4)	11(25.6)
程度	少ない	1（1.1）	0（0）	0（0）
	暖かい	1（1.1）	1（0.9）	0（0）
	強い	0（0）	1（0.9）	0（0）
		2（2.1）	2（1.9）	0（0）
合計		95(100)	108(100)	43(100)

④力性を変化させる指導言語の中で，どの学年にも共通して使われている言語として強さを意識した「かたい」，弱さを意識した「ふわっ」「そっと」が挙げられ，擬音語・擬態語が数多く使われていた。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として強さを意識した「強い」「よいしょ」「ぎゅっ」，弱さを意識した「やわらかい」「ふわふわ」「ふわり」と数多く挙げられていた。1・2・3・4学年では，強さを意識した言語と弱さを意識した言語の数があまり変わらなかったが，5・6学年では弱さを意識した言語より強さを意識した言語が多く見られた。

⑤身体の部位を意識させる指導言語の中で，どの学年にも共通して使われていた言語として，「体全体」「手」「尻」「足」「足の先」「頭」が挙げられた。これらは身体を意識させる上で基本的な部位であると考えられる。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として「腕」「へそ」が挙げられ，3・4学年と5・6学年にのみ共通して使われている言語として「ほっぺ」「首」「肩」「背中」「ひざ」が挙げられた。学年が進むにつれて，日常生活ではあまり意識して動かしていない部位を意識させる指導言語が多く使われていた。

⑥身体の形を変化させる指導言語については言語数が大変少なく，1・2学年と3・4学年に「丸く」が見られるだけであった。

⑦友達との関係を変化させる指導言語の中で，どの学年にも共通して使われている指導言語として，「一人で」「二人組」「グループで」「友達と」が挙げられた。これらは，友達との基本的な関係であると考えられる。

〈表13〉指導言語－擬音語・擬態語（全学年）

○態 ●音 ◎態音　＊は辞書にない語句

要因		1・2学年	3・4学年	5・6学年
人の動き（全身）	転ぶ 倒れる	○ごろん ○すってんころりん		
	伏せる		○ぱっと	
	歩く	○ちょこちょこ ○のっしのっし		
	動く	○ちょこまか ○ちょろちょろ ○つつつー ○ひょい ○ぴょーん ○ぴょんぴょん ◎もぞもぞ	○ちょこちょこ ○ひょいひょい	○ぱっと
	止まる	○さっと ○ぱっと	○ぴたっ	○ぴたっ
	震える	○ぴくぴく		
	投げる		○ぱっ	
	捻る			○ぐっと
	構える	○そっと ○どっしり	○そっと	○そっと
	引っ張る	○ぐいっ*		
（口）	開ける	◎ぷわぁー*	○ぱくぱく	
	食べる	○ぱくぱく		
感情・表情		○のっそり		
物の動き・変化	進む	○きゅうん* ○ぐんぐん ○すいすい ○じゅわじゅわ*	◎きゅーん ○ぐんぐん ○だんだん ○どんどん	○ぐんぐん
	飛ぶ 舞う	●しゅー ◎ひゅー ◎ぴゅー ◎ぴゅっ ◎ひゅるるる* ◎ひゅーん ○ふわふわ ◎ぶーん	◎きーん ◎しゅっ ○ぱーっ ◎ぱんぱん ◎ひゅーん ◎ぴゅーん ○ひらひら ○ふわっ ○ふわふわ ◎ぽんぽん	◎ひゅー ○ふわっ
	滑る	●しゅー		
	転がる	○つるりん* ◎ころころ ◎ごろごろ ○ころん	○くるん ◎ころころ ◎ごろごろ ◎ごろん	◎ごろごろ
	回る	○くるくる ◎ぷるんぷるん	○くるくる ○ぐるぐる ○ぐるっ ○くるり ◎ぷるんぷるん ●ぶーん	◎きりきり
	巻く	○くるくる	○くるくる	
	落ちる	◎どっしん* ○ぽーん	○すとん ○ぽーん	◎ひゅー ◎ぽたん*
	割れる	●ぱりん*		
	揺れる	○ゆらゆら	◎ぷるるーん* ○ぺらぺら ○ゆらゆら	
	伸びる	○ぐにゅーん* ○ひょろひょろ	○にょきにょき ○ぴょーん*	
	消える		○すすすー* ○どろん	○ふーっと
	開く	○ぱっ	○ぱっ ○ふぁー*	
	切る	◎ちょきちょき	◎ざくっざくっ ◎ちょきちょき	
	はがす			◎ばりばり
	打つ 叩く	○ぺたん ○ぺったん	●ぱしゃ ●ぱんぱん ●ぽんぽん	
	貼る くっつく	○ぴたっと	○ぺたっ	◎ぺちゃー
	押さえる	○ぎゅっと	○ぎゅっと	

要因		1・2学年	3・4学年	5・6学年
形状・状態	張る		○ぴーんと	○ぴんぴん
	萎える	○くしゃくしゃ	○くしゃくしゃ	
	突き出る	○つんつん		
	へこむ	○ぺちゃんこ		
	くねる 曲がる	○ぐにゃぐにゃ ○ぐにゅぐにゅ* ○こねこね*	○くねくね	
	硬い	○ごつごつ		
	おうとつ			○ぼこぼこ
	乱雑 雑然	○ぐしゃぐしゃ	○ぐしゃぐしゃ ○ばらばら	
	着膨れる			○もこもこ
	流れる	◎じゃーじゃー	◎ざぶざぶ ◎じゃー	◎じゃー ○つつつー ◎どどどどー*
	跳ねる	◎ぴちゃぴちゃ	●ばしゃばしゃ ◎ばしゃん ●ぱちゃぱちゃ ◎ぴちゃん	●ざばっ* ●ばしゃばしゃ ●ぱちゃー ●ぱちゃぱちゃ
	沈む ぬめる	◎どっぽん* ○にょろにょろ	○どろどろ ◎ぺちゃぺちゃ	○ぐっちゃん*
	泡立つ	◎ぷくぷく	◎ぷつっぷつっ*	
	降る	◎ざーざー ○ぽつぽつ	◎ざーざー ○ぽつぽつ ○ぽつん ○ぽつーん*	◎ざざー ○ぽつんぽつん
	光る	○きらきら ○しゅわー* ○ぴかっぴかっ	○しゅわー* ○ぴかぴか	
	浮く	○ふわっ ○ふわり	○ふわふわ ○ふわり	
	上がる 立ち込める	○もくもく ○もやもや	○もくもく	○むくむく ○もくもく
	吹く	◎ぴゅー	○そよそよ ●ひゅー ●ぴゅー	●ひゅー ●ぴゅー
	吹きでる	◎しゅるしゅる ●しゅー	◎しゅるしゅる ○もにゃもにゃ*	
	燃える		●ぱちぱち	
	焼く	●じゅー	◎じゃあっ ◎じゅうじゅう ●じゅっ ●じゅわー*	
音声・擬音	鳴く	●がおー* ●げろげろ		
	鳴る	●がががが ●がたん ●ごろごろ ●ばたばた	●かちかち ●ぎいぎい ●ぎーいぎーい ●ききききき* ●ちくたく ●どんどんちゃっちゃっ* ●ぷっぷー*	●がったん ●ぎぎぎぎ* ●ばーん* ●ぱーん* ●ばばーん*
	響く	●だだだーん	●ごごごー* ◎どしーん	◎だだーん ●どどーん
	ぶつかる	◎こつこつ ◎こつん ●どすーん ◎ばたんばたん	◎がっちんがっちん ●がちゃがちゃ ◎がちゃん ◎こつこつ ●とんとん ●どーん	●がたがた ◎だだだだ
	擦れる	●がりがり ◎ざわざわ	●がさごそ ◎きりきりっ ◎ざわざわ ●しゅっ	
	爆発する 割れる	●どっかーん ●ばっちーん* ●ばーん*	●どかーん ●ばんばん	●どどーん ●ばーん
程度	少ない	○ぽつん		
	暖かい	○ぽかぽか	○ぽかぽか	
	強い		○ぐーん	

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として「3人組」「2～3人」「人数を増やして」が挙げられた。

全体の傾向を見ると，1・2学年は「1人～2人」の「友達と一緒に」，3・4学年は「3人～4人」で「友達と関わって」，5・6学年は「5人～6人」で「グループ」が多くなっている。学年が進むにつれて関わりを持つ人数が増えていると考えられる。

<表12>は指導言語として使われていた擬音語・擬態語の数を分類毎に示したものである。1・2学年では『物の動き・変化』を表す擬音語・擬態語が最も多く，次いで『形状・状態』『人の動き』を表す擬音語・擬態語が多く使われていた。3・4学年では『物の動き・変化』『形状・状態』『音声・擬音』，5・6学年では『形状・状態』『音声・擬音』『物の動き・変化』を表す擬音語・擬態語の順に多く使われていた。

擬音語・擬態語の種類が多く見られるものとして，1・2学年では人の動きの中から「動く」，物の動き・変化の中から「進む」「飛ぶ・舞う」「転がる」，形状・状態の中から「鳴る」「ぶつかる」「爆発する」が挙げられた。

3・4学年では物の動き・変化の中から「進む」「飛ぶ・舞う」「転がる」「回る」「揺れる」「打つ・叩く」，形状・状態の中から「跳ねる」「降る」「吹く」「焼く」音声・擬音の中から「鳴る」「ぶつかる」「擦れる」が挙げられた。

5・6学年では，形状・状態の中から「流れる」「跳ねる」，音声・擬音の中から「鳴る」が挙げられた。

<表13>は実際に指導言語として使われた擬音語・擬態語を学年別にまとめたものである。どの学年にも共通して使われている擬音語・擬態語として人の動きを表す「そっと」，物の動きや変化を表す「ぐんぐん」「ごろごろ」，形状や状態を表す「じゃー」「ざー」「もくもく」が挙げられた。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている擬音語・擬態語として，人の動きを表す「ひょい」，物の動きや変化を表す「ひゅーん」「ふわふわ」「くるくる」「ぶるんぶるん」「ぽーん」「ゆらゆら」「ぱっ」「ちょきちょき」「ぎゅっと」，形状・状態を表す「くしゃくしゃ」「ぐしゃぐしゃ」「ぽつぽつ」「しゅわー」「ふわり」「しゅるしゅる」，音声や擬音を表す「こつこつ」「ざわざわ」，程度を表す「ぽかぽか」と数多く挙げられた。3・4学年と5・6学年にのみ使われている擬音語・擬態語として，人の動きを表す「ぴたっ」，物の動きや変化を表す「ふわっ」，形状・状態を表す「ばしゃばしゃ」「ばちゃばちゃ」「ひゅー」「びゅー」が挙げられた。

<表14>はイメージによる指導言語の数を分類項目別にまとめたものである。1・2学年では①動物，④物質に関するイメージが多く使われており，3・4学年は④物質，③自然現象，5・6学年は③自然現象，④物質に関するイメージが多く使われていた。この結果は「4．(4)子どもからでてきたイメージ」の結果と同様であった。また，

〈表14〉指導言語の分類－イメージ

（　）内の数字は%

分類	項目	1・2学年	3・4学年	5・6学年
①動物	・全般	2 (1.9)	0 (0)	0 (0)
	・ほ乳類	7 (6.8)	1 (1.4)	0 (0)
	・鳥類	4 (3.9)	1 (1.4)	0 (0)
	・はちゅう類	5 (4.9)	2 (2.9)	0 (0)
	・魚類	1 (1.0)	3 (4.3)	0 (0)
	・虫類	8 (7.8)	3 (4.3)	0 (0)
	・その他　無脊椎動物	3 (2.9)	0 (0)	0 (0)
		30 (29.1)	10 (14.3)	0 (0)
②植物		11 (10.7)	7 (10.0)	2 (8.0)
③自然現象	・刺激	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	・自然、物体、物質	9 (8.7)	9 (12.9)	11 (44.0)
	・宇宙・空	3 (2.9)	3 (4.3)	1 (4.0)
	・抽象	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		12 (11.7)	12 (17.1)	12 (48.0)
④物質	・物品	0 (0)	0 (0)	1 (4.0)
	・資材	1 (1.0)	5 (7.1)	2 (8.0)
	・衣料	6 (14.0)	0 (0)	1 (4.0)
	・食料	3 (2.9)	7 (10.0)	0 (0)
	・住居	0 (0)	1 (1.4)	0 (0)
	・道具	3 (2.9)	5 (7.1)	1 (4.0)
	・燈火	10 (9.7)	5 (7.1)	4 (16.0)
	・地類	0 (0)	1 (1.4)	0 (0)
		23 (22.3)	24 (34.3)	9 (36.0)
⑤遊び・スポーツ	・遊び	5 (4.9)	2 (2.9)	1 (4.0)
	・スポーツ	2 (1.9)	0 (0)	0 (0)
		7 (6.8)	2 (2.9)	1 (4.0)
⑥人と生活	・身体	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	・主体	2 (1.9)	1 (1.4)	1 (4.0)
	・行為	2 (1.9)	4 (5.7)	0 (0)
		4 (3.9)	5 (7.1)	1 (4.0)
⑦狩・物語		16 (15.5)	10 (14.3)	0 (0)
⑧感情		0 (0)	0 (0)	0 (0)
⑨感覚		0 (0)	0 (0)	0 (0)
⑩抽象概念		0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計		103 (100)	70 (100)	25 (100)

全体の割合を見ると，③自然現象，④物質に関するイメージは学年が進むにつれて多くなっているのに対し，①動物に関するイメージは学年が進むにつれて少なくなっていた。

さらに細かい項目を見ると，1・2学年では，動物の中の「ほ乳類」「鳥類」「はちゅう類」，自然現象の中の「自然・物体・物質」，物質の中の「燈火」，遊び・スポーツの中の「遊び」の種類が多く見られた。

3・4学年では，自然現象の中の「自然・物体・物質」，物質の中の「資材」「食料」「道具」「燈火」，人と生活の中の「行為」が挙げられた。

5・6学年では，自然現象の中の「自然・物体・物質」，物質の中の「燈火」が挙げられた。

Ⅲ．まとめ

音楽科の歌唱教材の分析，及び，表現運動の指導事例の分析より，以下のことが明らかになった。

1．表現運動の指導事例において，題材は，「生活科」「国語科」「算数科」「理科」「社会科」「図画工作科」「体育科」「音楽科」「家庭科」「学級活動」と全教科から取り上げられていた。1・2学年は「生活科」，3・4学年「理科」，5・6学年は「国語科」から多く取り上げられていた。動きを引き出す刺激についても同様であり，1・2学年は，体験を基にイメージを広げる指導方法，5・6学年では，言葉からイメージを広げる指導方法が多く取られてると考えらた。

2．音楽科の歌唱教材は，1・2学年では「動物」「人と生活」，3学年は「自然現象」「動物」，4学年は「動物」「人と生活」，5・6学年は「人と生活」「自然現象」から多く取り上げられていた。また，どの学年も，「自然現象」「生活事象」「思想・感情・抽象」と多岐に渡って選曲されており，表現運動の題材として多様な選択が可能であることが示唆された。

3．歌詞については，1・2学年は，主体と動きの構造が明確なものや，動き自体を歌にしたものが多く，学年が進むにつれて，特定した主体がなく，イメージを基に歌われたものが多い。

4．表現運動の指導事例では，1・2学年は「動物」「物質」，3・4学年は「物質」「人と生活」，5・6学年は「自然現象」「夢・物語」に関する題材が多く見られ，1・2学年では，「動物」、5・6学年では，「自然現象」が多いという傾向は，歌唱教材と同様であった。

5．子どもからでてきたイメージは，1・2学年は「動物」「物質」，3・4・5・6学年は「物質」「自然現象」が多く，歌唱教材，表現運動の題材と同様な傾向であった。

6．指導言語は，どの学年においても「イメージ」「擬音語」「擬態語」「空間」が多く使用されていた。学年が進むにつれて，「イメージ」の割合が減少し，「動きの要因」に関する言語が増加していた。「時性」「力性」に関する指導言語には，擬音語，擬態語が多用された。指導言語に見られる擬音語，擬態語は，1・2学年では「物の動き・変化」「形状・形態」「人の動き」，3・4学年では「物の動き・変化」「形状・形態」「音声・擬音」，5・6学年では「形状・形態」「音声・擬音」「物の動き・変化」を表すものの順に多く使用されていた。

7．イメージによる指導言語は，子どもからでてきたイメージと同様な傾向であり，子どもが浮かびやすいイメージが使用されていると考えられた。

参考文献

1）浅野鶴子：擬音語・擬態語辞典，角川書店，1978
2）金沢大学教育学部附属小学校：自己創造的表現，公開研究会紀要49集，1995
3）鹿島郡鳥屋町立鳥屋小学校：表現活動を通して自分の世界を広げることができる子に－国語科，集会活動を通して－，公開研究会要項，1995
4）鹿島郡鹿西町立能登部小学校：生き生きと自ら学ぶ子を育てる－柔軟な活動を通して個の表現力を伸ばす，公開研究会要項，1995
5）国立国語研究所：分類語彙表，秀英出版，1984
6）松本千代栄：課題学習とダンス・イメージ－舞踊連想用語の収集・分析－，1982

7）日本教育大学協会保健体育・保健研究部門全国舞踊研究会：大学専門教育改善のための現職教員のダンス指導実践に関する調査研究，1994
8）柴真理子：身体表現～からだ・感じて・生きる～，東京書籍，1993
9）尚学図書言語研究所：擬音語・擬態語の読本，小学館，1991